

地域の宝、子どもたちを守る

舟場自治会防災部が
「地域安全安心ステーション」の
モデル事業実施地区に
選ばれました



元気に登校する子どもたちを後ろから見守る松田毅さん（写真左奥）

地域を拠点とした
防犯活動が認められる

県警が行う、平成19年度「地域安全安心ステーション」モデル事業実施地区に舟場自治会防災部（稲田治部長）が選ばれ、6月22日、防犯パトロール用品授与式と防犯研修会が、舟場コミュニティセンターで開かれました。

地域安全安心ステーションモデル事業とは、地域の自主的な防犯活動の活性化のため、地域を活動拠点にしている防犯ボランティア団体をモデル団体に指定し、防犯パトロール用品などを無償で貸し出すというものです。舟場自治会防災部は、今年度全国で指定された100団体のうちの一つです。

授与式では、黒坂警察署の高力弘署長から、パトロール用ジャケッ、防犯ブザー、旗などの品が授与されました。また、防犯研修会では黒坂警察署生活安全刑事課長、田口勝美さんによる講演が行わ



授与された品は15種類。防犯パトロールなどに活用

れました。

田口さんは「防犯パトロールなど、常に地域の人の『目』があることで、犯罪を防ぐことはできる。また、黒坂警察署では、駐在所を廃止したぶんパトロールを強化しているので、不審者を見つけたときなどは警察署へ通報をお願いします」などと話し、集まった住民からは活発に質問が出るなど、地域の防犯について意識を新たにしていました。

子どもたちを見守る 防犯パトロール

舟場自治会防災部が防犯パトロールを始めたのは今年の2月。舟場地区には現在小学生9人、中学生3人が通学しており、登下校の安全を見守るのが主な目的です。

防災部のメンバーは現在32人。ほとんどが中高年の住民で、当番は特に決めず、都合のつく人が自主的にパトロールを行っているとのこと。

毎朝、登校する子どもたちを見守っている舟場自治会長の松田毅さんは、「家から近いこともあり、舟場橋の東屋付近に立って、通学する子どもたちを見守っています。子どもたちははじめは大人し



研修会に集まった舟場自治会防災部のメンバー

かったです、今では元気にあいさつしてくれるようになりました」と話します。

また、「立ち始めたころは、たばこの吸い殻やごみが散乱してひどい環境でした。子どもたちに見せまいとごみ拾いや草取りをしたところ、最近はおみの量も減ってきたようです。また、子どもたちも手伝ってくれています」とも。防犯活動が環境美化にも役立っているようです。

子どもたちの 笑顔を守りたい

なるし、いろんなことを話したりもします」と話し、喜んでい様子でした。

活動を知ってもらい
防犯の輪をまちに広げたい

そんな中、平成18年に結成され全町で防犯パトロールを行っている町地域防犯・生活安全パトロール協議会（山本武史会長）からのすすめもあ

大人に見守られ
のびのび育つ子どもたち

根雨小学校へ通学する9人の児童は、毎朝舟場橋の東屋に集合、集団登校しています。子どもたちは東屋に着くと松田さんに「おはようございます」とあいさつし、友達がやってくるのを待ちます。子どもたちは「毎朝おじさんたちが立っていてくれてうれし



り、「地域安全安心ステーション」モデル事業実施地区の候補に名乗りをあげ、黒坂警察署の協力を得て警察庁に申請、今回の指定となりました。

防災部長の稲田治さんは、「モデル地区に指定され、たくさんの方の防犯用品を貸与いただいたので有効に使いたい。また、防犯についての研修会や、子供向けの防犯教室も計画しています」と話します。

地域が一つになって 犯罪が起こりにくい環境を

黒坂警察署生活安全刑事課長の田口勝美さんに、地域の防犯のポイントなどについて話を聞きました。

犯罪者が最も恐れるのは、誰かに見られたり声をかけられたりすること。地域が一つになってパトロールや声かけをすることで犯罪が起こりにくい環境をつくることができます。もちろん家の鍵をかけるのも犯罪への抵抗になります。隣近所で声をかけあったり、あいさつを習慣付けて、地域がまとまってほしいと思いますね。



防災研修会で話す田口課長

黒坂署管内での犯罪発生件数は減少傾向にあります。原因はさまざまだと思いますが、防犯ボランティアの皆さんの力もあると思います。舟場自治会防災部の皆さんには、無理をしないで長続きする地道な活動をお願いしたいです。

また、これからのことについて、とにかく無理をせず、できることから地道に活動を続けていきたいです。隣近所で防犯意識を高めていくことが集落の活性化につながる。この活動の輪が少しずつでも町内に広がってほしいと思います」と、防犯活動への思いを語りました。

一人ではできないことでも、地域ぐるみで取り組めば大きな力になる。舟場自治会防災部の取り組みは、子どもたちを犯罪から守るだけでなく、地域そのものがひとつになる大きなきっかけにもなっているのではないだろうか。